

精神看護 第27巻(2024年) 総目次

表示は、「題名：著者，号数，開始ページ。」

特集

[1月号]「発達障害」は当事者に聞け！ 新時代の「知」を切り開く人たち

[当事者発信と科学研究] 自閉症論の領域を中心として：狩野祐人，1，7。

[発達障害当事者からみた当事者研究]「等身大の自己」がもたらす変革とつながり：綾屋紗月，1，12。

[ジャンルをゆうに超えて]「困りごとでつながる」がひろくフロンティア：鈴木大介，1，16。

[[「発達界限」を無視できない！]当事者自助グループが生み出す新たな「知」：横道誠，1，20。

[むしろ私は「動けない」]何もしないでぼーっとしている人：柴崎友香，1，24。

[精神医学からみて]ASD/ADHDを分ける(厳密に診断する)意味はあるのか？：兼本浩祐，1，28。

[3月号]白石正明さん(編集担当)が主観で解説するシリーズ「ケアをひろく」全43冊

[年表] シリーズ「ケアをひろく」全43冊と白石さんが担当した精神科関連本：編集室，2，92。

column 白石さんの本づくりの考え方

帯をどうやって作っているか，2，101。

惚れる力，2，102。

直さない。ただ器を変えるんだ，2，108。

目次の作り方，2，109。

信頼されること，2，114。

小見出しの付け方，2，118。

謎がその人のなかに作られていくのが「すばらしい本」，2，124。

[5月号]精神療法的排便ケア 便のことに首がつっこめる看護師の実践

精神療法的なケアとしての排便のケア—西村さんの目線と思考、何がすごいのか：武井麻子，3，187。

[クイズで学ぶ]排便ケア新常識—ここが精神科で勘所となります！：西村友希，3，191。

[対談]触れてもよい関係、かかわりの糸口の見つけかた：武井麻子・西村友希，3，204。

[7月号] [動画教材]実習前に！ 院内研修に！ 関わり・対話で、判断に迷うビミョーな場面、あなたならどうする？

[場面1]患者さんの部屋に初めて挨拶に行ったら、個人的なことをたくさん質問され、握手を求められた。：4，272。

[場面2]患者さんに活動を促すが、拒否されてしまった。(患者さん：統合失調症/長期入院中)：4，275。

[場面3]患者さんの言葉が聞き取れない。(患者さん：統合失調症/長期入院中)：4，278。

[場面4]暗い顔で悲観的な話をしてくられる。(患者さん：うつ病)：4，281。

[場面5]自分でできそうなのに頼ってこられる。(患者さん：統合失調症/長期入院中)：4，284。

[場面6]恐怖をとまなう妄想の話をしてくられる。(患者さん：統合失調症/長期入院中)：4，287。

[場面7]患者さんから、指導者の悪口を聞かされた。(患者さん：ボーダーラインパーソナリティ症)：4，290。

[場面8]患者さんが服薬せず、誇大妄想を話す。(患者さん：統合失調症/長期入院中)：4，293。

[場面9]患者さんがプレゼントを渡してくれようとする。(患者さん：うつ病)：4，296。

[9月号]トラウマからの回復には“身体・感覚”へのアプローチ

看護師にとっての「身体ケア」に新たな光を当てる—ポリヴェーガル理論からのヒント：武井麻子，5，367。

身体志向のトラウマ・ケアとストレス・ケア—ソマティック・エクスペリエンシング®とコレモ/SCOPEの臨床的な魅力：鎌田明日香，5，376。

トラウマセラピーの歴史と心身の考え方の必然的“統合”：金井講治，5，388。

[11月号]身体を使った対話 演劇がケアになる

「劇にしてみよう！」習慣のススメ：中島裕子，6，469。

「演じる人」が舞台の外に出たならば：岩井秀人，6，475。

プレイバックシアターにはなぜ「癒し」があるのか：奥田かおり，6，480。

【コラム】閉じていた何かが開く音—プレイバックシアターに出会ったある看護師のお話：前田由紀，6，486。

「山下澄人によるラボ」探訪：佐藤友亮，6，491。

「正常病」に抗する演劇：松嶋健，6，487。

演じることで自分自身の観客となる：野村真人，6，503。

演劇という健康な依存対象：横道誠，6，497。

特別記事

意外と知られていない睡眠障害と神経発達症：堀内史枝・細川里瑛，1，44。

褥瘡治療の基本をアップデートしよう：清水勇雄，1，47。

卒業してすぐに精神科に入職したレアナ新人さんに匿名インタビュー！：山下隆之・大喜多萌，4，298。

それは「支援」か「施し」か—「透明でない」わたしとして存在するために：齋藤美衣，5，394。

赤坂真理さんと松本俊彦さんのトークイベント—小さく死んで生き延びるために：編集室，6，454。

実践報告

急性期統合失調症患者を“在宅で支えきった”事例一見えていなかった「算定の壁」と、そこからの提案：斉藤和彦・山口達也・伊藤順一郎，3，218。

山梨県立北病院訪問看護ステーションによる突然死予防プロジェクト：定月美彩代・清水あや子・猪又加寿子・三澤史斉，5，416。

調査実践報告

精神科訪問看護ステーション利用者を対象にした自然災害に関する意識調査—個別計画立案に向けて：下山田緑・吉野優子，4，326。

対談・座談会

われらADHD探検隊：高野秀行・角幡唯介，1，32。

継続的に意味のある支援を届けるアウトリーチチームの在り方：館澤謙蔵、梁田英麿、高木俊介、近田真美子，6，514。

インタビュー

精神看護を届けるスゴイ人—訪問看護ステーションteamつなぎ 山田倫子さん「隣に座って、一緒にその人の世界を見た」：山田倫子・船山健二，4，320。

新刊

『そうだったのか！精神科の病気』—「精神科をやる上で、一番知りたかったこと」かもしれない。『精神看護』での連載を経て、ついに登場！：『精神看護』編集部，1，52。

フィールドノート

シャイユクリニック留学記 複数性、外国人性と“治療”(前編) 不安だらけのフィールドワーク：橋本和樹，1，58。

シャイユクリニック留学記 複数性、外国人性と“治療”(後編) 日本でも言える「治療すべきはまず治療環境である」：橋本和樹，2，140。

当事者旅行記

発達障害をもつ当事者横道誠が浦河べてるの家を訪れた《前編》当事者研究発祥の地、浦河べてるへ：横道誠，2，168。
発達障害をもつ当事者横道誠が浦河べてるの家を訪れた《後編》発達障害者たる私は、なかばメンバーになっていた：横道誠，3，254。

自著を語る

「同じ月を見あげて—ハーモニーで出会った人たち」僕がいっしょに生きてきた、遅しく愛しい人たちの記録として：新澤克憲，4，346。

活動記録

令和6年能登半島地震—精神看護専門看護師たちによるメンタルヘルス活動：瀧めぐみ・長山豊・武用百子，5，402。

連載

●**たくさんの人の声、集めました！—SNSの利点を活かして、同じ領域で働く仲間と交流してみませんか／マツコ、田端恭兵、TOKIYAPI**

- (18)精神看護における資格制度と働き方のリアル，1，64。
- (19)自分の職場のメンタルヘルスについて、シェアしてみませんか？，2，152。
- (20)よい精神科医療福祉サービスの選び方とは？，3，234。
- (21)ストレングス発見の工夫を教えてください！，4，342。
- (22)ヤングケアラーの支援、どうする？，5，432。
- (23)新体制、始動！，6，534

●**当事者研究のスキルバンク／べてるの家**

- (39)本日の研究者：かずさん 本日のスキル：苦労のユニークなキャラ化法，1，84。
- (40)本日の研究者：ゆたかさん 本日のスキル：頭・心・体チェック式人生のバランス回復法，2，174。
- (41)本日の研究者：マミーさんとけんくん 本日のスキル：子ども手動型ぬいぐるみ活用法，3，262。
- (42)本日の研究者：マミーさん 本日のスキル：「苦労の形」の見える化法，4，358。
- (43)本日の研究者：わかこさん 本日のスキル：しゃべるが勝ち！負けるが勝ち！許すが勝ち！笑えば勝ち！法，5，444。
- (44)本日の研究者：早坂潔さんとばびぶべば劇団 本日のスキル：自分を演じるばびぶべば演劇法パート2，6，540。

●**精神科訪問看護を軌道に乗せた私のノウハウ・経験をお伝えします／山下隆之**

- (10)存在し続けられる組織を創るために，1，74。

●**スキゾ小町の貸し出し休耕田／あべ・レギーネ**

- (4)野外の仕事のメリットデメリット，1，78。
- (5)身体の病気と精神の病，2，162。
- (6)私にとっての合理的配慮，3，244。

●**患者に導かれる学生、引き込まれる教員。—精神看護の入口への誘い方／船山健二**

- (4)学生が抱いた「倫理的苦悩」に学ぶ，1，70。
- (5)精神科訪問看護で必要となる「豊かな感性」，2，158。
- (6)精神保健を担う行政保健師の実践，3，240。
- (7)グループから「チーム」へと深化した学生たち—教員である筆者は何をして、何をしなかったのか，4，348。

●**傍らでいて／木暮明菜**

- (1)ああ、実に、惜しい，1，4。
- (2)一目置かれた人のそばで，2，138。
- (3)ブラックユーモア(不眠時と薬時)／なぜ、私は詩を書くようになったのか，3，180。
- (4)ロードレース，4，268。
- (5)黙らせることと決めさせること，5，364。

- (6)あなたも私も，6，452。

●**船山's Eye 精神看護の延長線上にある「ケア」／船山健二**

- (1)ご存じですか!?「プレコンセプションケア」，1，73。
- (2)ご存じですか!?「受刑者や刑務所出所者のヘルスケアニーズ」，2，161。
- (3)ご存じですか!?「ポストベンション」，3，242。
- (4)ご存じですか!?「乱用薬物検査キット」，4，351。

●**銭湯で鍛えたコミュニケーションは精神看護に生きる／那須祐子**

- (1)こだわりの強い人，1，82。
- (2)裸の進路相談，2，166。
- (3)思春期の守秘義務，3，252。
- (4)否定もせず、肯定もせず？，4，356。
- (5)見よう見まね，5，442。
- (6)3時間の女，6，538。

●**地域移行の時代に“避けて通れない”「身体疾患」治療・ケアのパラダイムシフト／石田琢人**

- (1)精神科臨床に起きているパラダイムシフトをとらえる，2，146。
- (2)糖尿病—「思い切り」がカギとなる!?，3，228。
- (3)「最善」の選択とは，4，336。
- (4)「身体合併症」って一括りにするのを、そろそろやめませんか，5，426。
- (5)最初から、治療しないほうがよかったのか？—統合失調症をもつ患者さんのがん治療，6，528。

●**何が人を殺すのか／齋藤美衣**

- (1)ありふれたふつうの措置入院，3，210。
- (2)わたしが閉鎖病棟で見たもの，4，312。

●**もし私が師長になったら 新米管理者のマネジメントストーリー／山下隆之**

- (1)えっ？ 私が師長に……！，3，224。
- (2)「仕事ルール」を作る，4，332。
- (3)「仕事ルール」に従わない人をどうする？，5，422。
- (4)スタッフの不満や対立をどうする？，6，524。

書論・書評

『職場のメンタルヘルスケア入門』（編集代表：宮岡等）実践対応に役立つ職場のメンタルヘルスケア入門書：高崎正子，1，81。

『精神医療の専門性—「治す」とは異なるいくつかの試み』（著：近田真美子）地域のすべての支援者への贈り物として：高木俊介，3，223。

『作業療法の曖昧さを引き受けるということ』（著：齋藤佑樹／上江洲聖）漫画と侮るなかれ。医療・ケアの曖昧さを分け合う本：橋本和樹，3，239。

『よっちばっち—家族四人の四つの人生』（著：齋藤陽道）「その人の覚悟」を聞く：萱間真美，3，248。

『心理社会的プログラムガイドブック』（著：池淵恵美）「巨大こいのぼり」を肯定する：木暮明菜，4，352。

『発達障害Q&A—臨床の疑問に答える104問』（編：金生由紀子）当事者の「強み」をどう考え、どう引き出していくのか：小平雅基，5，414。

『庭に埋めたものは掘り起こさなければならない』（著：齋藤美衣）書くことは生きること：豊原響子，6，508。

読者投稿コーナー

『「あなたの指導を受けた学生は着眼点が変わる」と言われたので、その理由を考えてみました」，4，354。

『「毒母」という役割を担わされる母たち」：大野るい，5，438。

NEWS&TOPICS

齋藤環さんが「つくばダイアログハウス」を開設！，6，513。